

技術情報

JA全農やまぐち

TAC・営農推進課 (083-988-0681)
平成 25 年 8 月 16 日 発行
第 178 号

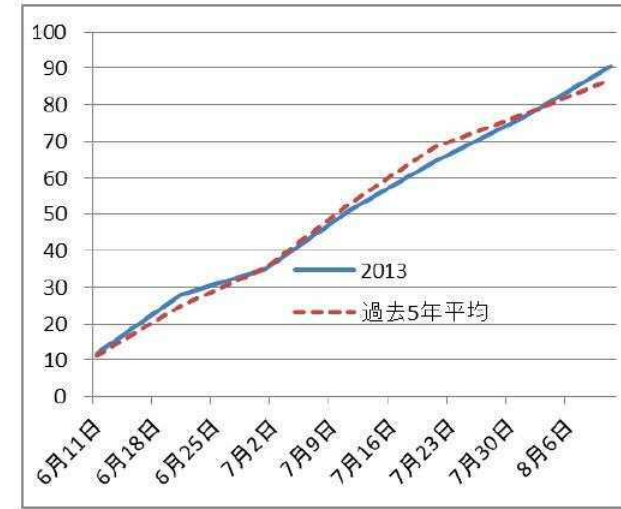
I 平成 25 年度 第 6 回 水稻生育診断情報

農林総合技術センターからの水稻生育・栽培管理速報 (No.6) を参考に技術情報を作成しました。水稻栽培の管理指導にご活用ください。

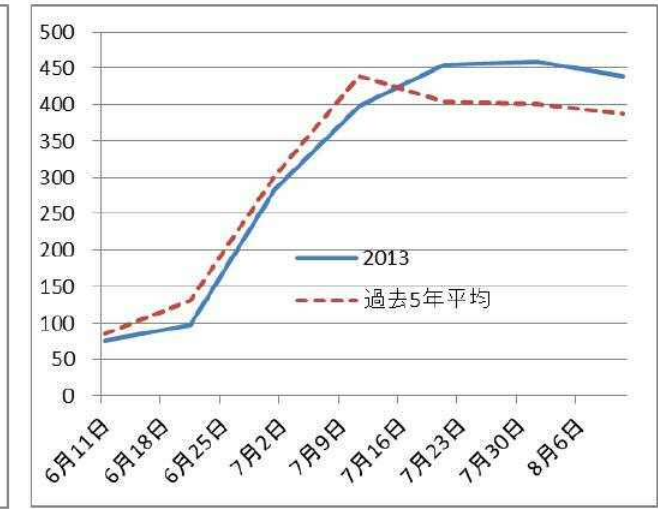
1 気象状況

- 7月8日の梅雨明け以降は、一転して最高気温が35℃を超える猛暑となった。
- 山口市では、7月3、4半旬の最高気温、日照時間が過去10年で最高・最多となった。
- 7月第5半旬までは、高温多照の天候が続いたが、第6半旬は最高気温がやや低下し、最低気温が上昇する傾向が見られた。
- 7月28日、萩市須佐で1日の降水量が350mmを超える未曾有の豪雨となり、萩市須佐、山口市阿東を中心に大規模な水害が発生した。
- 8月1半旬は降水量も多く、気温も平年並み～やや高い程度で推移したが、8月2半旬は連日最高気温が35℃を超える猛暑となった。

(3) ヒノヒカリ (6月上旬植え)



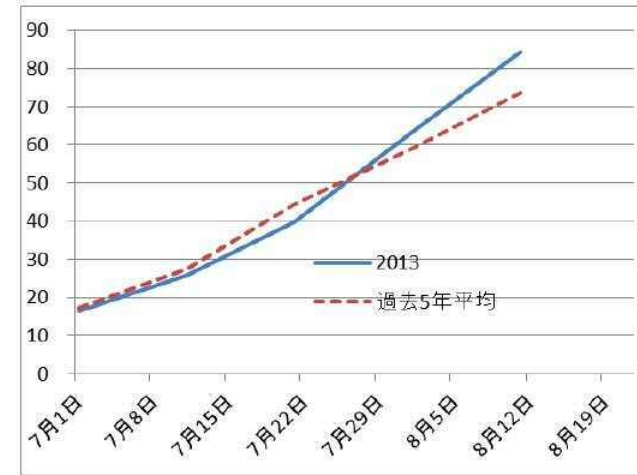
ヒノヒカリ草丈 (光市小周防)



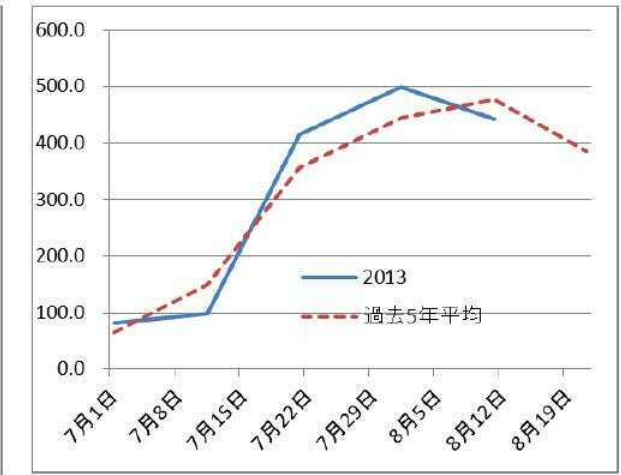
ヒノヒカリ m²当茎数 (光市小周防)

- 6月上旬植えの一部は穂ばらみ期に入っており、出穂期は平年より2～3日早いと推察される。
- 草丈は平年並みからやや長くなっており、茎数も平年を上回っている。
- 葉色は概ね4程度を維持している。

(4) ヒノヒカリ (6月下旬植え)



ヒノヒカリ草丈 (山口市秋穂二島)



ヒノヒカリ m²当茎数 (山口市秋穂二島)

- 生育は平年より2日程度早く、幼穂形成期に入った。
- 草丈は7月下旬からやや長めに推移している。
- 最高分げつ期を過ぎて、茎数は減少傾向にあるが、必要な穂数は確保できると推察される。
- 葉色は4程度を維持しているが淡化傾向にある。

2 生育概況

水稻の生育状況 (平成25年8月12日現在)

区分	品種	移植期	出穂期		草丈(cm)			茎数(本/m²)			葉齢(L)		葉色	
			年	差	比	差	比	差	比	差	比	差	比	
奨励品種決定調査	コシヒカリ		7月24日	▲1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ひとめぼれ	5月15日	7月24日	▲2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	晴るる		7月28日	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	きぬむすめ													
定点基準ほ	ひとめぼれ		8月4日	▲1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コシヒカリ	5月29日	8月3日	▲1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	きぬむすめ		8月12日	▲3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ヒノヒカリ	6月18日			82	105%	4	457	91%	▲45	13.5	0.3	4.2	0.2
農林事務所農業部調査ほ場	コシヒカリ	5月15日	7月28日	▲4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ひとめぼれ	5月20日	7月29日	▲4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	晴るる	5月21日	8月4日	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	きぬむすめ	5月29日			90	94%	▲6	386	100%	0	14.0	-	4.0	▲0.3
	ヒノヒカリ6月上中	6月4日			92	102%	2	376	103%	13	14.7	0.0	4.1	0.1
	ヒノヒカリ6月下	6月23日			82	108%	6	393	94%	▲25	13.0	0.2	4.1	▲0.2

※ 比・差は過去5年平均との比較(定点基準ほは過去7年との比較)

(1) コシヒカリ、ひとめぼれ、晴るる

- 出穂を終えて、登熟期に入った。
- 出穂期は、コシヒカリで平年より2～8日早、ひとめぼれで1～5日早、晴るるで平年並み～3日早であった。

(2) きぬむすめ (5月下旬～6月上旬植え)

- 5月下旬植えでは出穂期に入っており、出穂は平年より3日～6日早い。
- 草丈は平年並み～やや長く、茎数は平年並み～やや多い。
- 葉色は平年並みとなっている。

3 病虫害発生状況

- 7月下旬以降山間部から平坦部にかけて葉もちの発生が多くなっており、平坦部のヒノヒカリ、中生新千本で、いもち病防除剤が入っていない箱施薬を使用しているほ場では、発生程度が中～多のものも認められる。
- 紋枯れ病の発生は平年に比べてやや少である。
- コブノメイガは7月中旬以降食害が目立ち始めており、平坦部を中心に発生が増加している。
- トビイロウンカの発生はやや多となり、8月12日付で注意報が発令された。

4 今後の管理

(1) 7月28日の大雨による冠水、土砂流入等の被害を受けた稲の管理

- 大雨の被害を受けた稲の対応については、7月31日付け「7月28日の大雨による農作物等被害の事後対策」を参照する。

◎冠水した水稻では、細菌性病害が発生しやすくなることから、カスラブサイド剤や銅剤を散布する。
なお、使用前には必ず農薬使用基準を確認する。

(2) コシヒカリ、ひとめぼれ、晴る(5月上～下旬植え)

- 出穂後20日間は引き続き湛水管理を徹底する。今後も高温の天候が続くと予想されることから、可能であれば**用水の入れ替えや夜間かけ流し等**により、**水温を低く**保つことを心掛ける。
- 各ほ場においてトビイロウンカの発生を確認するとともに、情報にも留意して必要であれば速やかに防除を行う。
- 今後も高温多照の天候が続く予報となっていることから、成熟期の前進が予想される。刈り遅れは胴割れ等品質低下につながることから、コンバインや乾燥調製施設の点検整備は早めに行い、適期収穫が行えるよう準備しておく。

(3) きぬむすめ(5月下旬～6月上旬植え)

- 出穂期に入っており、湛水管理を徹底するが、今後も高温の天候が続くと予想されることから、可能であれば**用水の入れ替えや夜間かけ流し等**により、**水温を低く**保つことを心掛ける。
- いもち病、斑点米カメムシ類がやや多いことから、穂ばらみ期、穂揃い期の防除を徹底する。
- 8月上旬までに収穫した稲については、穂揃い期後7日に斑点米カメムシの補完防除を行う。
- 出穂が8月中旬以降になる場合は、穂ばらみ期もしくは穂揃い期にトビイロウンカの防除を徹底する。

(4) ヒノヒカリ(6月上旬植え)

- 穂ばらみ期に入っており、湛水管理を徹底するが、今後も高温の天候が続くと予想されることから、可能であれば**用水の入れ替えや夜間かけ流し等**により、**水温を低く**保つことを心掛ける。
- いもち病、斑点米カメムシ類、トビイロウンカがやや多いことから、穂ばらみ期、穂揃い期の防除を徹底する。

(5) ヒノヒカリ(6月中下旬植え)

- 幼穂形成期に入っており、湛水管理を徹底するが、今後も高温の天候が続くと予想されることから、可能であれば**用水の入れ替えや夜間かけ流し等**により、**水温を低く**保つことを心掛ける。
- 1回目の穂肥施用後7～10日で、2回目の穂肥で基準量を確実に施用する。
- 緩効性肥料を施用している場合も**、葉色の変化に注意して、**急激な色落ち**(葉色4.0を下回る場合)がある場合には**8月中旬までに追肥**を施用する。

(6) 病害虫防除等

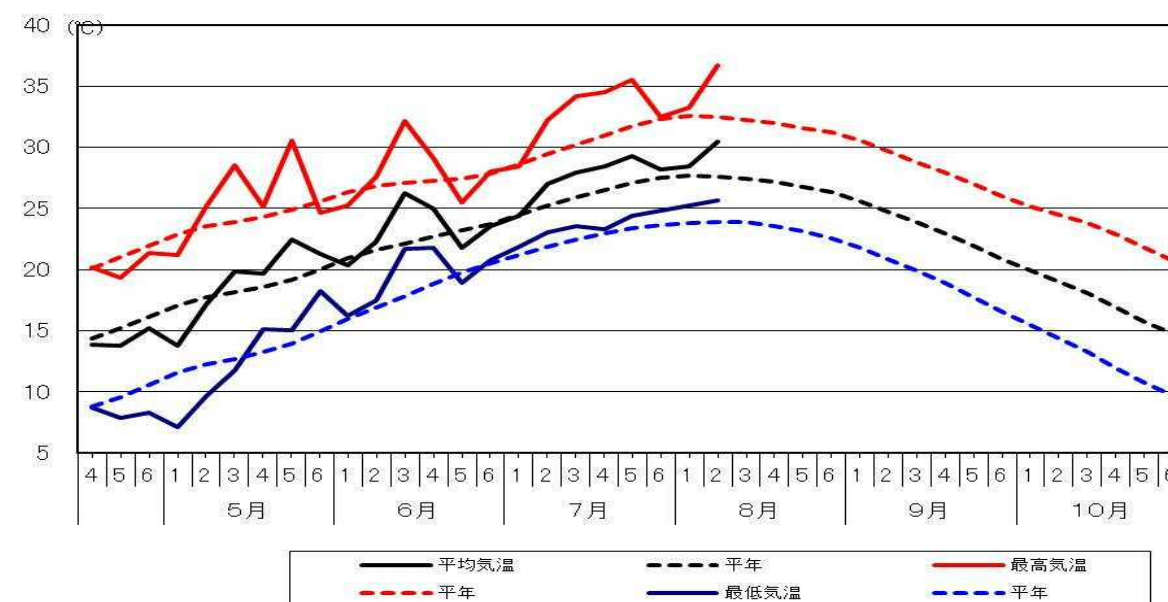
- 斑点米カメムシ類が多発していることから、出穂2週間前の畔草刈は必ず実施するとともに、その後もイネ科雑草が穂を出さないよう管理する。
- きぬむすめ、ヒノヒカリについても穂ばらみ期、穂揃い期のいもち病・斑点米カメムシ類の防除を徹底する。
- トビイロウンカの注意報が発表されたことから、ほ場での発生を確認するとともに、今後の情報に留意し、必要な場合は速やかな防除を行う。特に収穫期が9月中旬以降になる稲は、トビイロウンカによる坪枯れが発生しやすいことから、穂ばらみ期もしくは穂揃い期の防除を徹底する。
- 今後一か月間の長期予報では、高温の気象が続く確率が增大しており、引き続き水管理や稲体の栄養管理に留意して、高温障害の防止に努める。

(詳しくは「技術情報」No176・177・179号を参照してください)

平成 25 年度 稲作期間気象表

1 山口市

(1) 最高・最低・平均気温



(2) 降水量、日照時間

